

平成18年(昭和31年)2月1日(水)

東海の古代

第69号 編集・発行 古田史学の会・東海

代表 林 俊彦 〒461-0025 名古屋市東区徳川1-729

メール frttokai@zm.commufa.jp

電話/FAX 052(936)5012

郵便振替 00870-5-30752

昭和区の石田さんが奮闘されて、わが古田史学の会・東海のホームページを立ち上げることになりました。皆様のご協力も得てより充実させていくつもりです。

新年も古田先生はお元気です。大阪で会いましょう。

古田武彦 新春特別講演会

期日 2月18日(土)

午後1時受付開始

午後1時半～午後4時半

場所 中央電気倶楽部 西館#513号室

大阪市北区堂島浜2-1-25

電話 06-6345-6351

(場所の問い合わせのみ)

大阪駅より徒歩12分、JR北新地駅より徒歩6分

演題 「万世一系」の史料批判

——九州年号の確定と古賀新理論の(出雲)の展望——

参加費 1000円

主催 古田史学の会(全国組織)

連絡先 水野孝夫0742-44-1805

呪符の証言

偶然は人を思いがけないところへ導きます。冬のある日、私はあてどなき思索の潮流に身をまかせました。

(表) 南山之下有不流水其中有一大蛇九頭一尾不食余物但食唐鬼朝食三千暮食

(裏) 八百 急々如律令

上記は平城京の二条大路から出土した木簡に書かれた文字です。「日本の歴史04 平城京と木簡の世紀」(渡辺晃宏著、講談社)で紹介されているものを引用しました。

「急々如律令」は「災いよ速やかに退散せよ」で呪符の決まり文句。「南山」のふもとに流れざる水があり、そこに尻尾は一本で頭が九つの大蛇が住んでいるという。その大蛇は「唐鬼」しか食べない。それも朝に三千匹、夕に八百匹。「唐鬼」とは当時(七三五年から)大流行した天然痘、「南山」とは吉野の山、と著者は読み解きます。一応は納得できますが、吉野にそんな大蛇の伝承があったのでしょうか。「不流水」とは池か湖なのでしょうか。吉野にそんなところがあるのでしょうか。

ここで古田史学の会事務局長・古賀達也さんの昨年来の新説に私は引き寄せられました。

飛鳥清原大宮に大八州御しめしし天皇(天武)の御世にいたりて、潜龍元を體し、洊雷期に應じき。夢の歌を開きて業を纂がむことを相せ、夜水に投りて基を承けむことを知りたまひき。然れども、天の時未だいたらずして、南山に蟬蛻し、人事共給はりて、東國に虎歩したまひき。

(古事記序文)

古田先生が壬申の乱を分析し、九州の吉野を見いだしたのをはじめ、それは西日本全体をまきこむ大戦乱だったとしたことを受けて、古賀さんは古事記(七一二年完成)序文に注目されました。序文と本文は単に文体が違うばかりでなく、内容的にも食い違いが随所にあります。しかし序文は天皇への上表文であるから元明へのウソは許されない(臣下に読ませる本文ではウソをついても)。それで序文のほうが史料として信頼性が高いという論理で、上記こそが壬申の乱の真実の発端ではないかとされるのです。

古賀さんは、「水」は川という意味もある。「夜水」は「一夜川」の別名を持つ筑後川を指す。「南山」は筑後川の南にある高良山である。天武は一旦高良山にこもって機を見て、唐軍に「人事共給」されて戦端を開いたと説を立ててみえます。(も

ちろんもっと詳細な史料上の根拠を挙げての広範な立論です)

この古事記序の「南山」と木簡の「南山」は同一で、高良山ではないか。「不流水」は筑後川ではないか、と私は思っていました。太安万侶とこの木簡を書いた人はほぼ同じ時代に同じ平城京の住人だったのですから。

筑後川は日本の川としては珍しいほど普段は流れがゆるやかです。有明海の干満の影響を受けてかなり上流まで逆流するほどです。「不流水」とは言いえて妙です。もちろん一旦悪天候になれば、暴れ川と化します。「坂東太郎・筑紫次郎」の異名は伊達ではありません。幾筋も流れを変えて濁流を流す様はいくつも頭を持つ大蛇に例えても不思議はありません。

もっとも九州の話がなぜ平城京で？と疑問を持たれるでしょう。しかし天然痘はまず筑紫に入り、猛威をふるいました。医学や衛生学の知識に乏しい当時は、わらにもすがる思いでまじないにも手を出したことでしょう。効き目があるという評判が奈良にも伝わったのではないのでしょうか。

ここから私は奇想の渦に巻き込まれました。

頭が九つなら首も九つで首の股は八つです。つまり「九頭一尾の大蛇」とはヤマタノオロチです。何をいうか。ヤマタノオロチは出雲ではないか、と思われませんか？しかし「出雲國風土記」にヤマタノオロチの記載は一切ありません。すなわち「本家」出雲の古代伝承には存在しません。記紀のヤマタノオロチ説話は九州王朝で語り継がれたものの引用です。スサノオが降り立った「肥の河」(古事記)は「肥の国の河」(筑後川)に違いありません。佐賀県の神崎郡には櫛田宮という古社があり、祭神はクシナダ姫、スサノオ、日本武尊で、ヤマタノオロチ伝説も残っています。

もう一つ、「唐鬼」には先例があったのかもしれませんが。白村江の敗戦の後、唐の軍隊がやってきました。古田先生の説によれば、長期に筑紫を占領した。筑紫の君磐井の墓の石人石馬を破壊したのも唐の占領軍だ、ということです。

磐井の墓へは筑後川を渡らなければ行けませ

ん。日本書紀によれば、唐の軍隊は2千名ずつ2回、計4千名筑紫に来ています。しかし帰国記事はないのです。南山の大蛇が食べた「唐鬼」は3千8百、この近似は偶然ではありません。こうして呪文が作られ、天然痘筑紫来襲の際にご利益があった。そんな風説の下、平城京で冒頭の木簡が書かれました。

小さな板切れ一枚を私の論理のいかだとして、ついにここまでたどり着きました。そして自己のたどりきった航路をここに記録し終えました。2月例会で感想をお聞かせください。

2月例会に参加を

日程：2月19日(日)午後1時～4時半

場所：名古屋市公会堂第3集会室(2階)

名古屋市昭和区鶴舞1丁目1-3

地下鉄鶴舞線「鶴舞」下車4番出口徒歩2分

JR中央本線「鶴舞」下車公園出口徒歩2分

参加費：500円(維持会員は無料)

3月例会にも参加を

日程：3月5日(日)午後1時半～5時

場所：名古屋市市政資料館第4集会室(2階)

名古屋市東区白壁1の3(名古屋拘置所南)

地下鉄名城線「市役所」下車、東へ徒歩8分

名鉄瀬戸線「東大手」下車、南へ徒歩5分

市バス「市政資料館南」下車、北へ徒歩5分

〃 「清水口」下車、南西へ徒歩8分

〃 「市役所」下車、東へ徒歩8分

一応、駐車場有(無料)12台収容

南隣にウィルあいち(愛知県女性総合センター)／地下駐車場30分170円

その後の予定

4月例会：4月9日(日)

例会はなるべく毎月第2日曜日にしたいのですが、会場の都合等によりしばしば変則的になります。日程をよく確認しお出かけください。

3月はいつもの会場を確保できませんでした。今回だけ和室です。4月はいつもの鶴舞の公会堂です。